



みゃ〜く使い

〜宮古家畜保健衛生所〜

令和3年1月発行
 沖縄県農林水産部
 宮古家畜保健衛生所
 宮古島市平良字西里1951
 TEL (0980) 72-3321
 FAX (0980) 72-6673

全国各地（15県）で高病原性 鳥インフルエンザが発生中！

注意！

令和2年11月5日～令和3年1月13日にかけて、香川県・福岡県・兵庫県・宮崎県・奈良県・広島県・大分県・和歌山県・岡山県・滋賀県・高知県・徳島県・千葉県・岐阜県・鹿児島県の養鶏農場にて、家畜伝染病である高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認されました。

畜産関係者の皆様方におかれましては、改めて飼養衛生管理の徹底や異常家きんの早期発見・早期通報に万全を期していただくようお願いいたします。

◎発生農場の件数および羽数

- ・発生農場数：合計36農場（加えて、疫学的関連農場11農場※、食鳥処理場1件）
- ・合計羽数：合計約612万羽

※疫学的関連農場：発生農場と人や車両の往来、発生農場周辺にいた動物（野鳥やネズミなど）の出入りがあるなど、何らかの形で関係があると考えられる農場。

◎防疫対策

- ・当該農場の飼養家きんの殺処分・埋却
- ・農場から半径3km以内の範囲で移動制限区域を設定
- ・半径3～10kmの範囲で搬出制限区域を設定
- ・消毒ポイントの設置

最新情報はこちら



農林水産省 プレスリリース

鳥インフルエンザの侵入防止には飼養衛生管理基準の遵守徹底と早期発見、早期通報が極めて重要です。

家きんの管理状況を再度見直し、侵入防止対策を強化しましょう。

死亡羽数の増加等、異常がある場合は家畜保健衛生所まで連絡ください

宮古家畜保健衛生所 TEL：0980-72-3321（時間外、休日も転送対応）

鳥インフルエンザについて

1. 原因

感染した鳥の気道、結膜、糞便中に多量のウイルスが放出され、それに汚染された器具、機材、えさ、水、ヒト、動物などにより、ウイルスが媒介される。

2. 症状

(1) 高病原性鳥インフルエンザ：

高死亡率（～100%）、急死（1～7日）、発熱、顔面浮腫、昏睡、肉冠・肉垂の浮腫・壊死・出血・チアノーゼ、神経症状、下痢、脚部の皮下出血・チアノーゼ など



肉冠の壊死と出血



脚部の皮下出血



眼輪周囲の浮腫性腫脹

(2) 低病原性鳥インフルエンザ：

軽度の呼吸器症状、鼻汁、元気消失、食欲低下、産卵低下 など

3. 侵入・まん延防止対策

(1) 人、車輛等による侵入の防止

- ・ 外来者の出入りを最小限とし、衛生管理区域を設定。
- ・ 踏み込み消毒槽や車輛消毒設備を設置。

(2) 野鳥、野生動物による侵入の防止

- ・ 鶏舎には防鳥ネットを設置。

(3) 飲用水、飼料の汚染による侵入の防止

- ・ 飲用水には新鮮な水道水を使用。水道水以外を使用する際には、消毒を実施。
- ・ 飼料タンクを清潔に保ち、野生動物の侵入を防止。

(4) 衛生管理区域内の衛生状態を保持

- ・ 鶏舎や衛生管理区域内の設備及び器具の清掃・消毒を定期的実施。

(5) 毎日の健康観察

- ・ 家きんの特定症状を発見した際には直ちに家畜保健衛生所に通報。



死亡羽数の増加等、異常がある場合は家畜保健衛生所まで連絡ください
宮古家畜保健衛生所 TEL：0980 - 72 - 3321 (時間外、休日も転送対応)

家畜飼養者の
みなさん

定期報告書の提出をお願いします

家畜伝染病発生時には、初動防疫を迅速に行うことが重要となります。そのため、**家畜の所有者は、毎年、畜舎の位置、家畜の頭羽数（2月1日時点）・衛生管理状況を都道府県知事へ報告することが法律により義務付けられています。**

◆受付場所（3～6月まで随時受付）

- ・宮古・多良間セリ開催日
- ・宮古家畜保健衛生所
- ・宮古島市役所 畜産課（新庁舎3階）
→ 新住所：平良字西里1140
- ・多良間村役場 産業経済課



◆対象者：対象家畜の所有者

◆対象家畜：

牛、水牛、鹿、馬、めん羊、山羊、豚、いのしし、鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥、七面鳥

◆報告内容

1. 基本情報：

所有者/管理者の名称、住所、連絡先、家畜の種類、頭羽数など

2. 飼養衛生管理基準の遵守状況

3. 添付書類：農場の平面図、飼養密度など

★分からない事がある場合は家畜保健衛生所まで連絡ください

宮古家畜保健衛生所 TEL：0980 - 72 - 3321（時間外、休日も転送対応）

あけましておめでとうございます



主任技師
具志 尚子

主任
庄野 雪菜

事務補助
宮城 優希

技師
新川 裕之

主任
井村 博丸

技師
知念 涼奈

班長
下地 秀作

所長
砂川 尚哉

主任
長濱 克徳

主任
新城 史也

新年明けましておめでとうございます。皆様方には、健やかな新春を迎えられたことと、お慶びを申し上げます。今年は、新型コロナウイルス感染症対策で例年とは少し違う年の初めを迎えたことと思います。また、旧年中はコロナ禍の中、当家畜保健衛生所が実施している家畜防疫衛生・振興業務推進にご理解とご協力を頂き心から感謝申し上げます。

昨年は、1月初めに沖縄本島中部で豚熱が確認され、畜産農家に大きな衝撃を与えましたが、多くの関係者等のご尽力により4月に収束することができました。また、新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るい、私たちの日常生活、社会の動向、観光需要の大幅な減少により県産和牛などの畜産物は大きく影響を受けました。とりわけ肥育素牛生産地である宮古地域での子牛販売価格に影響がみられ、1頭平均価格が60万円を割り込む時期があり販売実績が35億7200万円と前年比7億円余の減収となりました。また、国内において11月頃から西日本を中心に高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）が継続的に発生していますので、関係機関と緊密に連携し侵入防止を図っていききたいと思っております。

今年の干支は丑年です。丑年は芽が出て発展する前触れを意味する干支と言われています。新型コロナウイルスのまん延で、まだまだ耐え忍ぶ年になるかもしれませんが、地道に突き進むことで新たな発展へと繋げる年にしていきたいと思います。我々家保職員一同、関係機関、生産農家さんと連携し、宮古地域の畜産発展向け全力で頑張る決意ですのでよろしくごお願い致します。

令和3年 元旦
宮古家畜保健衛生所 所長 砂川 尚哉